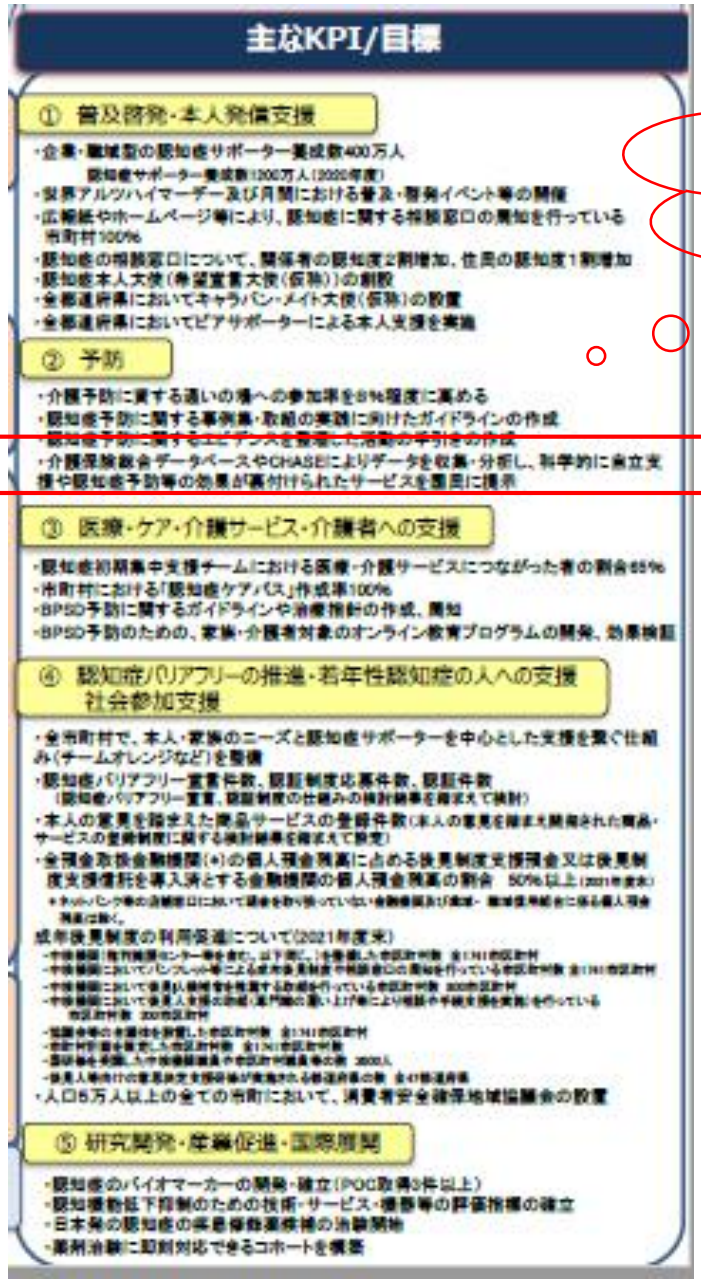
認知症施策推進大綱のKPI/目標における介護分野の課題



主なKPI/目標

① 普及啓発・本人発信支援

- 企業・職域型の認知症サポーター養成数400万人
  認知症サポーター養成数1200万人（2020年度）
- 世界アルツハイマーデー及び月間における普及・啓発イベント等の開催
- 広報紙やホームページ等により、認知症に関する相談窓口の周知を行っている市町村100%
- 認知症の相談窓口について、関係者の認知度2倍増加、住民の認知度1倍増加
- 認知症本人大使（希望宣言大使（仮称））の創設
- 全都道府県においてキャラバン・メイト大使（仮称）の設置
- 全都道府県においてピアサポーターによる本人支援を実施

② 予防

- 介護予防に資する通いの場への参加率を8%程度に高める
- 認知症予防に関する事例集・取組の実践に向けたガイドラインの作成
- 認知症予防に関するエビデンスを整理した治験の手引きの作成
- 介護保険総合データベースやCHASEにおいてデータを収集・分析し、科学的に自立支援や認知症予防等の効果が裏付けられたサービスを国民に提示

③ 医療・ケア・介護サービス・介護者への支援

- 認知症初期集中支援チームにおける医療・介護サービスにつながった者の割合65%
- 市町村における「認知症ケアパス」作成率100%
- BPSD予防に関するガイドラインや治療指針の作成、周知
- BPSD予防のための、家族・介護者対象のオンライン教育プログラムの開発、効果検証

④ 認知症バリアフリーの推進・若年性認知症の人への支援 社会参加支援

- 全市町村で、本人・家族のニーズと認知症サポーターを中心とした支援を繋ぐ仕組み（チームオレンジなど）を整備
- 認知症バリアフリー宣言件数、認証制度応募件数、認証件数
  （認知症バリアフリー宣言、認証制度の仕組みの検討結果を踏まえて検討）
- 本人の意見を踏まえた商品・サービスの登録件数（本人の意見を踏まえ開発された商品・サービスの登録制度に関する検討結果を踏まえて設定）
- 全預金取扱金融機関（*）の個人預金残高に占める後見制度支援預金又は後見制度支援信託を導入済とする金融機関の個人預金残高の割合　50%以上（2021年度末）
  *ネットバンク等の店舗窓口において現金を取り扱っていない金融機関及び農協・職域信用組合に係る個人預金残高は除く。

成年後見制度の利用促進について（2021年度末）

- 市町村長（地方自治法第252条の19第1項の指定都市の長を含む。以下同じ。）を設置した市区町村数　全1741市区町村
- 市町村長において、パンフレット等による成年後見制度や相談窓口の周知を行っている市区町村数　全1741市区町村
- 市町村長において、後見人候補者を推薦する取組を行っている市区町村数　300市区町村
- 市町村長において、後見人支援の取組（専門職の質・上げ等により相談や手続支援を実施）を行っている市区町村数　300市区町村
- 協議会等の体制を整備した市区町村数　全1741市区町村
- 市町村計画を策定した市区町村数　全1741市区町村
- 協議会を実施した市区町村職員等の参加　2000人
- 後見人等向けの意思決定支援研修が実施される都道府県の数　全47都道府県
- 人口5万人以上の全ての市町村において、消費者安全確保地域協議会の設置

⑤ 研究開発・産業促進・国際展開

- 認知症のバイオマーカーの開発・確立（POC取得3件以上）
- 認知機能低下抑制のための技術・サービス・機器等の評価指標の確立
- 日本発の認知症の疾患修飾薬候補の治験開始
- 薬剤治験に即刻対応できるコホートを構築

介護保険総合データベースやCHASEにより
データを収集・分析し、科学的に自立支援や
認知症予防等の効果が裏付けられたサービ
スを国民に提示

↓

2021年（令和3年）4月
科学的介護情報システム
「LIFE」（旧・CHASE・VISIT）**運用開始**

↓

LIFE関連加算の算定状況　（2021年10月審査分）

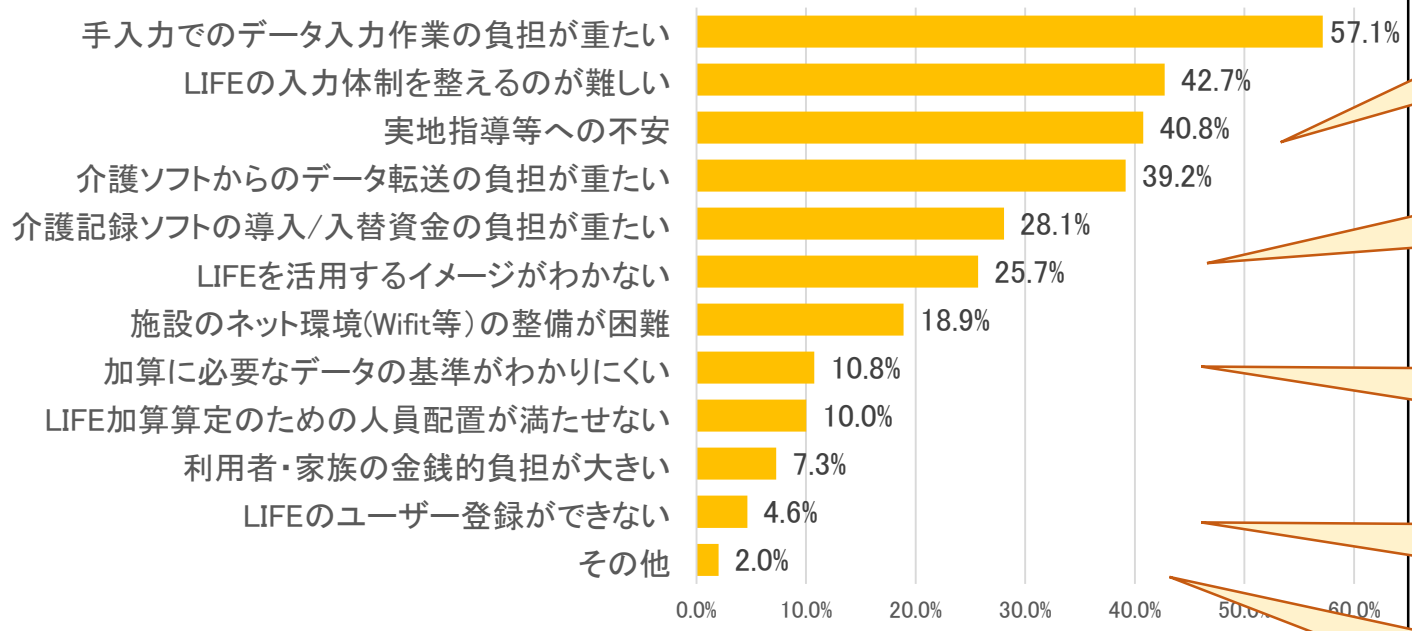
介護保健施設サービス	63.7%
介護福祉施設サービス	50.6%
通所リハビリテーション	42.6%
通所介護	33.7%
認知症対応型共同生活介護	28.5%

令和3年度介護報酬改定の効果検証及び調査研究に係る調査（令和3年度調査）
「（2）LIFE を活用した取組状況の把握および訪問系サービス・居宅介護支援事業所におけるLIFEの活用可能性の検証に関する調査研究事業」報告書より

老健施設における科学的介護情報システム（LIFE）対応状況

全老健 「科学的介護情報システム（LIFE）導入状況調査」
調査期間：　2021年7月1日（木）～年7月9日（金）
回答施設数：　1,486施設/3580施設（悉皆調査、回答率：41.5%）

LIFEの活用において課題だと感じている点（複数回答）



介護ソフト買えないから手入力で大変！

項目が多すぎ！評価が大変!!

エラー多いし遅い。使い勝手悪い！

加算算定や入力のルールがややこしい

そもそも機械は苦手…

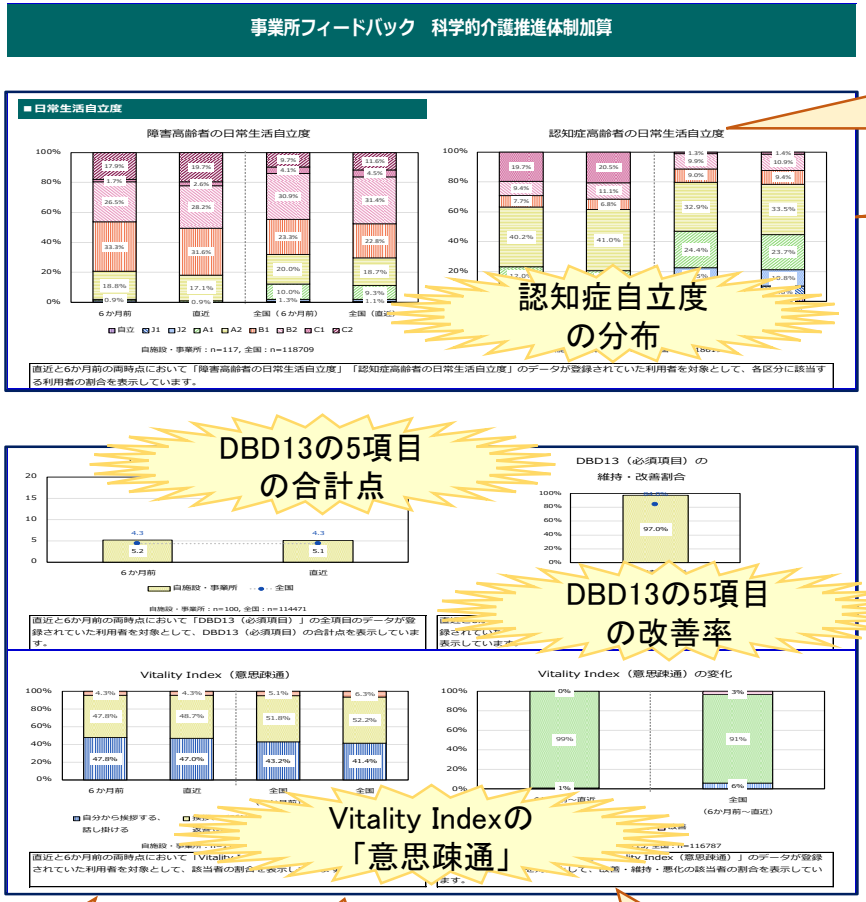
あんなフィードバックじゃ使えない！不毛な作業…

【LIFEのデータ入力は、業務時間内に対応できるか？】

対応するために時間外労働が必要と回答した施設	68.1%
業務時間内で対応可能と回答した施設	14.5%

LIFEのフィードバック（事業所票）

2022年5月、本格運用から丸1年後、ようやく「事業所フィードバック票」提供開始…



そもそも、介入情報が収集されていない

同一人物でもサービス種類が違うと情報の連結ができない

データが非公開

データクリーニング出来てない

集計方法はブラックボックス

フィードバック票の活用に当たっての留意事項について

2022/5/30　厚生労働省老健局老人保健課

○　今回公表するフィードバック票については、現時点では暫定的な集計となっています。

○　本資料では、主だった留意事項を掲載しています。事業所における入力に問題がない場合でも、通常では考えにくい集計結果や事業所の実態と異なる集計結果になっている可能性があります。また、掲載されていない項目についても、実態と異なる集計結果になる可能性がございます。

○　これらのフィードバック票に係る課題については、今後検討を行ってまいりますが、PDCAサイクルへの活用に当たっては、本資料を踏まえ、各事業所において、可能な範囲で御活用ください。

システムの業務委託先が交代、諸課題山積だが今後ひとつずつ改善していく予定とのこと…

ICFステージングによる認知機能のアセスメント

- 認知機能に関するアセスメントは、**見当識および精神活動は「できるかどうか」**で判断
  - これは、見当識と精神活動は、普段日常ではあまり明らかでない活動内容を調査しているため
- 一方コミュニケーションは、普段の周囲の人との対応や言語活動の状態など、**普段から「行っているかどうか」**で判断
- せん妄などにより、時間によって意識障害が変動するような場合は、意識状態が良好な時間に基づいて判断
  - 特記事項に意識状態の変化を記入
- 聴覚障害や、運動失語症などで、言葉は理解するが、表現できない場合は、言葉以外の表出によって判断
  - 感覚失語などで、言葉を理解していない場合は、わからないと判断する。

			ステージ	状態	状態のイメージ
年月日	年月日がわかるか。（±1日の誤差）	わかる	5	年月日がわかる。	年月日
		わからない	4	年月日はわからないが、現在いる場所の種類はわかる。	現在いる病院の名称
場所の名称	現在いる場所の、種類がわかるか。	わかる	3	場所の名称や種類はわからないが、その場にいる人が誰だかわかる。	
		わからない	2	その場にいる人が誰だかわからないが、自分の名前はわかる。	自分の名前
他者に関する見当識	その場にいる人がだれだかわかるか（例えば家族か、職員か、が判れば可）。	わかる	1	自分の名前がわからない。	自分の名前
		わからない			
自分の名前	自分の名前がわかるか。	わかる			
		わからない			

※「状態判定」は基本的に上から下に難易度ステージ（高→低）を設定している。

● 認知症高齢者における適切な評価

・認知機能（残存能力）の指標の検討（認知症高齢者の尊厳・自立支援に資する内容）

⇒ LIFEにおける認知症の指標へ